

～在宅療養サービスって知っている？では訪問看護サービスは？～

平成27年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名 : 盛岡北部3市町における訪問看護の動向に関する調査研究
研究代表者 : 看護学部 教授 三浦まゆみ
課題提案者 : 岩手県盛岡広域振興局保健福祉環境部 医療介護課
研究メンバー : 工藤朋子(看護学部)、岡村鋭次 吉田正 柄内圭子 菊池とも 千葉典子
(岩手県盛岡広域振興局保健福祉環境部 医療介護課)
キーワード : 訪問看護サービス、住民の認識

▼研究の概要(背景・目的)

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活し続けることができるまちづくりを推進するために「地域包括ケアシステム」を構築することが重要な課題となっている。しかし盛岡圏域北部3市町(八幡平市・岩手町・葛巻町)は中山間地域に位置し、高齢化率も高い地域であるが、「訪問看護ステーション」がないという地域特性を有している。そこでサービスの受け手である住民はその現状をどう捉えているのかを明らかにすることを目的とした。

※医療・介護機関の専門職及び住民への質問紙調査を行ったが、ここでは住民調査を取り上げる。

▼研究方法

- 1.調査期間 平成28年7月の1ヵ月間
- 2.調査対象 3市町の40～60歳代住民1,000人
- 3.調査方法 質問紙調査

▼結果

対象者の概要 有効回答数424(42.4%)

性別 : 男性41.3% , 女性58.7%

年代 : 40代26.4% , 50代47.2% , 60代26.4%

介護認定を受けている家族 : 87(22.4%)

うち6家族(6.7%) : 介護認定者が複数

要介護4及び5の家族 : 約3割が施設で生活

訪問看護利用について

「ぜひ利用したい」12.6%

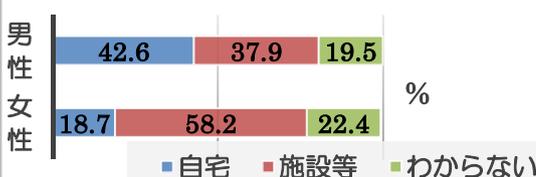
「経済的に可能であれば利用したい」63.4%

身の回りのことができなくなった時の最期を迎える場所について

「病院・施設」49.8% 「自宅」29%

「わからない」21.2%

性別との関連



介護保険サービス(居宅)の認知状況

サービスを知っていると回答(%)



訪問看護サービスを「知っている」は約4割

近所付き合いについて



- 個人的なことを相談し合える人がいる
- さしさわりのないことなら、話せる人がいる
- 口道であれば、あいさつする程度のひとならいる
- ほとんど近所づきあいをしない

中山間地域ではあるが付き合いは希薄傾向

自宅での療養生活を送る場合の市町への要望

経済面への支援を 在宅医療施設の充実を
家族に支援を 情報提供を
定期的な訪問や電話を 介護職員の定着と促進を
個々に着目したサービスの充実を
住み慣れた地域で生活できる環境づくりを

理由(最も多かった回答)

「病院・施設」自宅療養では家族の負担が大きい
「自宅」住み慣れた場で最期を迎えたい
最期まで自分の好きなように過ごしたい



▼結論

1. サービス利用の課題は、一番経済的負担が多かった。
2. ぎりぎりまで家族あるいは自分で頑張ろうとする、それが介護負担へとつながり、なかなか在宅療養選択につながらないという一つの傾向がみえてきた。